

整理番号 02075

# 安全データシート

## 1. 化学品及び会社情報

製品名（化学名、商品名等） **F-Cl Absorbent**

エフ・シーエル アブソorbent

販売者情報	会社	LECO ジャパン合同会社		
	住所	〒105-0014 東京都港区芝2丁目13番4号 住友不動産芝ビル4号館		
	担当	SDS 担当者		
	電話番号	(03) 6891-5800	FAX 番号	(03)6891-5801
製造者情報	会社	LECO Corporation		
	住所	3000 Lakeview St. Joseph, Michigan 49085, U.S.A.		
推奨用途	分析試験用			
使用上の制限	推奨用途以外で使用する場合は専門家の判断を仰ぐこと。			

## 2. 危険有害性の要約

### GHS 分類

健康に対する有害性 : 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 区分 2B  
生殖毒性 区分 1B  
特定標的臓器毒性(単回暴露) 区分 1(甲状腺)  
特定標的臓器毒性(反復暴露) 区分 1(皮膚・甲状腺・全身毒性)

### ラベル要素

絵表示：



注意喚起語： 危険

危険有害性情報：眼刺激。生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い。授乳中の子に害を及ぼすおそれ。甲状腺の障害。長期にわたるまたは反復暴露による甲状腺、皮膚、全身臓器の障害

## 注意書き

- 安全対策： 使用後はよく手を洗うこと。使用前に取扱説明書を入手すること。すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。適切な個人用保護具を使用すること。粉塵、ヒューム、蒸気、スプレーを吸入しないこと。取扱後は手をよく洗うこと。この製品を使用するときに、飲食または喫煙をしないこと。
- 応急措置： 気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合：医師の診断、手当てを受けること。ばく露またはばく露の懸念がある場合：医師の診断、手当てを受けること。
- 保管： 施錠して保管すること。
- 廃棄： 内容物、容器の廃棄は国、地方自治体、国際規則に従って行う。

## 3. 組成、成分情報

- 化学物質・混合物の区別 : 化学物質
- 化学名 : ヨウ化カリウム
- 成分及び含有量(wt%) : 98-100
- 化学式又は構造式 : KI
- 官報公示整理番号 化審法 : 1-439  
安衛法 : 表示通知対象物質 605  
PRTR 法 : 対象外
- CAS No. : 7681-11-0
- 国連分類及び国連番号 : 該当しない

## 4. 応急措置

- 吸入した場合 ダストを吸入した場合、すぐに新鮮な空気のある場所に移動させる。必要であれば酸素または人工呼吸器をつける。症状がひどくなる/長引く場合には医師に連絡する。
- 皮膚に付着した場合 汚染された衣服を取り除く。多量の水と石鹼で洗い流す。刺激がある場合には医師に連絡する。汚染された衣服は再使用の前に洗濯する。
- 目に入った場合 すぐに多量の水で洗い流し、15分以上続ける。コンタクトレンズを着用していて外せるようなら外す。すすぎを続ける。刺激がひどくなる/続く場合には医療アドバイスを受ける。
- 飲み込んだ場合 意識のない者、けいれんを起こしている者に口から何も与えてはならない。すぐに医療機関に連絡する。

急性症状及び遅発性 症状の最も重要な兆 候症状	入手不可
医師に対する特別な 注意事項	一般的な処置及び症状に合わせた適切な治療を施す。被害者を温かい場所におき、監視をやめないこと。症状が遅れて出る場合がある。

## 5.火災時の措置

消火剤	乾燥粉末、CO <sub>2</sub>
使ってはならない消火剤	知見なし
火災時の特有の危険有害性	N/A
消火を行う者の保護	火災時には自給式呼吸器と全身の保護衣を着用。
特有の消火方法	火災の際は未使用の容器を水スプレーにより冷却する。
一般的な火災の危険性	異常な火災や爆発は起こらない。

## 6.漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護 具及び緊急時措置	関係者以外を退避させる。清掃中は適切な保護衣を着用すること。漏出物からのダストを吸入しないようにする。ダスト/ヒュームが暴露限界を超える危険がある場合は認証された呼吸器を使用する。十分な換気を行う。
封じ込め及び浄化の方法及 び機材	発火源をすべて取り除く(付近では喫煙、炎、火花は厳禁)。ダストの発生、蓄積を最小限にする。適切な廃棄容器に漏出物を掻き入れる。
環境に対する注意事項	排水、水路または地面への流出を防ぐ

## 7.取扱い及び保管上の注意

安全取扱い注意事項	ダストが発生する場所には適切な換気を設ける。ダストの発生、蓄積を最小限にする。ダストを吸入しない。眼、皮膚、衣服への接触を避ける。長期的な暴露を避ける。口に入れたり飲み込んだりしない。取り扱い時は飲食、喫煙をしない。適切な保護具を着用する。取扱後はよく手洗いを行う。産業衛生に気を配る。
安全な保管条件	熱や発火源から遠ざける。製品の入っていた容器のまま、密閉して涼しく乾燥し換気の良い場所に保管する。混触危険物に近づけない(第10項を参照)。劣化の可能性があるので長期的な保管は推奨しない。

## 8. 暴露防止措置

許容濃度(暴露限界値)

US. ACGIH Threshold Limit Values

物質	タイプ	値	形状
ヨウ化カリウム	TWA	0.01 ppm	吸引性粒子と蒸気

成分	タイプ	値	形状
ヨウ化カリウム (CAS 7681-11-0)	TWA	0.01 ppm	吸引性粒子と蒸気

生物学的限界値

生物学的暴露限界値は設定されていない。

設備対策

取扱い、熱加工などで発生するダストやフュームを効果的に取り除き、蓄積を防ぐために十分な換気を行う。設備換気が十分でなくダスト濃度を職業暴露限界以下に保てない場合は告有機保護具を着用しなければならない。本製品を使用する場合洗眼シャワーと緊急シャワーを準備する。

保護具

眼/顔の保護	サイドシールド付き保護メガネまたはゴーグル。
皮膚の保護	
手	適切な耐薬品グローブを着用する。
その他	適切な保護衣を着用する。
呼吸器の保護	ダスト/ヒュームへの暴露が許容限界を超えるおそれがある場合認証済みの呼吸器を使用する。
熱的危険	必要な場合熱保護衣を着用する。
一般的な衛生事項	食べ物等から遠ざけておく。製品を取扱い後と休憩の前は手をよく洗うなど、産業衛生に気を配り取り扱う。作業着や保護具は定期的に洗浄し汚染を取り除くこと。

## 9. 物理/化学的性質

物理状態

形状	固体(結晶)
色	白色
臭い	なし
融点・凝固点	681℃
沸点又は初留点及び沸騰範囲	入手不可
可燃性	入手不可
爆発下限及び爆発上限界/可	入手不可

燃限界	
引火点	入手不可
自然発火点	入手不可
分解温度	入手不可
pH	入手不可
動粘性率	入手不可
溶解度	1400 g/l @20°C
n オクタノール/水分配係数	入手不可
蒸気圧	入手不可
密度及び／又は相対密度	3.13g/cm <sup>3</sup> 推定
相対ガス密度	入手不可
粒子特性	入手不可

## 10.安定性・反応性

反応性	入手不可
化学的安定度	通常の状態安定。ヨウ化カリウムは長期的に空気に触れることでヨウ素の放出が起こり黄色になる。
危険有害反応可能性	有害な重合は起こらない
避けるべき条件	空気への暴露。光への暴露。ダストの拡散を防ぐ（圧縮空気でダストを吹き飛ばすなど）。混触危険物質との接触を防ぐ。
混触危険物質	ジアゾニウム塩、ビス（イソプロポキシカルボニル）ペルオキシド、酸化剤、臭素、三フッ化塩素、過塩素酸フッ素、塩化水銀、塩素酸カリウム、金属塩、酒石酸やその他の酸
有害な分解生成物	分解または加熱により有害なヨウ素蒸気が放出される。

## 11.有害性情報

起こりうる暴露についての情報	
吸入	呼吸器に刺激が起こる。
皮膚	皮膚に刺激を起こす。
眼	重篤な眼刺激を起こす。ダストが眼に入ると刺激が起こる。
飲み込んだ場合	飲み込むと有害。
物理的、化学的、有害性特性に関連した症状	皮膚の刺激。上気道への刺激。眼刺激。発赤、痛みを起こすおそれ。
毒物学的影響	
急性毒性	入手不可



廃棄手順	廃棄物の回収、廃棄は密閉容器に入れて、認証を受けた処理場にて行う。内容物/容器の廃棄は地域/国/国際的規制に従い行う。
残余廃棄物/未使用製品	地域の規制に従う。空容器には製品が残っている場合がある。当該製品とその容器は安全に廃棄されなければならない。
汚染容器	空容器の再利用/廃棄には認証を受けた廃棄処理場に持ち込まなければならない。

## 14.輸送上の注意

本製品は DOT,IATA,IMDG において危険品として規制されていない

## 15.適用法令

労働安全衛生法	施行令第18条の2別表第9（名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物）605
---------	---

## 16.その他の情報

参考文献	本製品の英文 SDS(100215) : LECO Corporation JIS Z7252 (2019) GHS に基づく化学品の分類方法 JIS Z7253 (2019) GHS に基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法-ラベル、 作業場内の表示および安全データシート 化学便覧 : 丸善 職場のあんぜんサイト : 厚生労働省 NITE 化学物質総合情報提供システム : 独) 製品評価技術基盤機構
------	--

作成：平成13年9月10日

改訂：平成22年4月27日

平成23年7月11日 住所変更

平成24年7月30日 法令見直し

平成28年3月14日 英文 SDS の改訂、書式見直し

平成28年5月10日 法令見直し

令和4年2月7日 法令見直し、2019年版 JIS 対応

令和6年4月19日 法令見直し

\* 記載内容は、現時点で入手できた資料、情報、データ等に基づいて作成しておりますが、必ずしも万全なものではなく、含有量、物理化学的性質等の数値は保証値ではありません。製品の取扱いには十分に注意してください。  
尚、新たな情報を入手した場合は、追加又は訂正することがあります。